

# 平成29年度 森林動物研究センターシンポジウム

## －開催報告－

### 1) 来場者数

108名

※内、関係者21名、

(参考) 昨年度、シンポジウムの来場者数139名 (内関係者20名)

### 2) アンケートの結果 (一部抜粋)

#### 2-1) 各内容に関するコメント

##### ①ヨーロッパと日本のシカ管理の課題と展望

- ・日本における狩猟の現状、この問題の解決の重要性がよくわかりました。
- ・世界の中での日本の立ち位置や現状が知れてとても良かったです。
- ・狩猟の管理体制が整ったヨーロッパと比較することで日本の課題が分かり易く伝わりました。

##### ②個体数・分布の変化と保護管理の歴史

- ・江戸時代のシカの情勢など非常に面白い事柄でした。
- ・図表が多くとても分かり易い解説でした。
- ・明治期にはシカが激減しているイメージでしたが農業被害があったことに驚きました。

##### ③森林生態系の衰弱 - モニタリングから見た被害・管理効果・将来予測

- ・植生の話や定点観察が見れ、よかったです。
- ・森林とシカの関係がよく理解できた。
- ・捕獲目標達成により土壌の保全、生物多様性保全、水源かん養機能、等につながる。

##### ④新たな捕獲技術と今後の被害対策 - 捕獲と被害対策を並行にできる体制

- ・これまでの積み上げに新しい技術を組み合わせ課題に対応することが学べた。
- ・本当に地道な研究の成果をまとめていただきとても参考になりました。
- ・被害を軽減させるには、集落や地域全体での協力が必要だと改めて学びました。

##### ⑤地域を支えるシカ管理の体制づくり - 次のステップに向けて

- ・将来を見据えた取り組み、体制の方向性が分かった。
- ・これから何をどうしていくのかピンポイントで提示いただき、参加者に考えさせる内容になっており非常に良かった。
- ・前の話題の復習と今後の管理について非常に消化しやすかったです。

##### ⑥パネルディスカッション

- ・縄張りの意識についての比較や伝統性からの取り組みが気になります。低密度捕獲について納得です。
- ・幅広いディスカッションがよりリアルで理解を深められた。
- ・人材育成が今後の最重要課題であると改めて知りました。

## 2-2) 次回に取り上げてほしい内容、テーマ

- ・クマの生息実態と被害対策について (5 件)
- ・県域を越えた連携の状況、近県の被害状況、地域にあった検討方法。(3 件)
- ・シカの捕獲から食べるまで・・・人獣共通感染症について (3 件)
- ・イノシシへの対策について (2 件)
- ・外来生物について (2 件)
- ・カラス、カワウ、サギ類まで領域を広げて (2 件)
- ・海外における鳥獣被害の現状と対策について (1 件)

## 2-3) その他シンポジウムに関する意見

### ①シンポジウムについて

- ・会場が狭い。多くにお方が関心を持っているので、次年度は大きな会場での開催をお願いしたい。
- ・私語、携帯電話に関する注意もアナウンスした方が良い。(デジカメ、スマホがうるさい)
- ・平日に開催してほしい。

### ②感想

- ・これまでの調査があり今の個体数把握があるのだと分かりとても大切な活動をされているのだと改めて感じました。